

<牧師室から>

クーラー無しでは寝られない日が続いています。意識的に冷水を飲むようにしています。一昔前は、気温が 35℃と聞いただけで目がまわるような気がしましたが、最近では天気予報などで 40℃近い気温が日本各地に広まりつつあるように思えます。それに加えてコロナ感染者数が高止まりしている今、マスク常用が当たり前の毎日です。熱中症対策からすればマスクをはずせないということは命の危険とも言えるでしょう。私には現代世界が“死の影の谷”(詩篇 23:4)をさまよいつつあるのを感じます。しかしそれでも私は、18日に召天された木村敏子さんが、かつて証しの中で残してくださった愛唱聖句によって励まされています。

このときヨブは起き上がり、上着を裂き、頭をそり、地に伏して拝し、そして言った、「わたしは裸で母の胎を出た。また裸でかしこに帰ろう。主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな」。 (ヨブ記 1:20-21)

まだまだ世の先行きは不透明ですが、それでも命の主は変わらぬ恵みをもって私たちと共にいてくださいます。私たちは礼拝、賛美をもって共にこの時を進んでいきましょう。

<在宅礼拝にあたって>

できる限り日曜 11:00~12:00 に下記の在宅礼拝プログラムをご一緒しましょう。教会堂で共に礼拝を捧げていた時を思い起こし、励みにしていただきたいと思えます。なお難しい方には時間の都合のつく折にささげてください。

教会堂での礼拝の場合、御言葉や祈りは司会者のことば(声)を通して聞く、賛美歌は奏楽者のリードで会衆一同、歌うことによって捧げていますが、在宅の礼拝の場合は、以下を参考にして、夫々の工夫によってささげましょう。わからないことは、牧師にお尋ねください。

・「招詞」

招きのみ言葉です。

この礼拝に招かれていることを感謝し、聖書のみ言葉に聴きましょう。

・「聖書」

御言葉をゆっくり味わいましょう。音読するなどの方法もおすすめです。

・「感謝と献金の時」

献金は、感謝と献身の表しとして捧げられるものです。1週間の出来事を思い起こしての感謝と応答を祈りましょう。献金を直接ささげることができないこの時には、封筒に入れるなどして、教会堂での礼拝が再開された折ご持参いただければ幸いです。

・「賛美」

歌詞を読んで味わうなどでも結構です。ユーチューブに収録されている賛美に声をそろえるなどの方法も考えられます。

・「メッセージ」

「メッセージ要旨」をお読みください。

・「祈祷」

メッセージから受けた恵みや、祈りの課題を含め示されたところを祈りましょう。

・「頌栄」

「ベネディクション」の賛美を通して主の祝福を心に受け、来主日に向けた新しい一週間を共に歩み出していきましょう。

・「祝祷」

お互いに主の祝福を祈り合い、また主の祝福が世界各地に満ちるよう共に祈りましょう。

<在宅礼拝プログラム>

- ・招 詞 詩篇 89 篇 2 節
- ・賛 美 新生讃美歌 26 番 「ほめたたえよ造り主を」
- ・感謝と献金の時
- ・主の祈り
- ・聖 書 出エジプト記 6 章 28 節～7 章 7 節 （口語訳旧約聖書 81 頁）
- ・メッセージ 「神のごときもの」
- ・祈 祷
- ・賛 美 新生讃美歌 104 番 「雨をふりそそぎ」
- ・頌 栄 新生讃美歌 679 番 「ベネディクション」
- ・祝 祷

<メッセージ>

神さまみたいに何でもできたらなあ、わかったらなあ…子どもの頃、神さまは全知全能だということを聞いた時に、素朴に思ったことでした。本日の聖書箇所においてモーセは、当

時、世界規模の帝国のトップに対して、神のごとき存在とされたことが記されています。(7:1) けれどもモーセは何でもできたというわけではありません。できるどころか、自分の意思を伝えることすらままならなかったようです。(6:30) 世の中に苦しみはさまざまありますが、自分の伝えたいことが伝わらないときほど、苦しいことはないでしょう。

神さまは“できない”存在を“神のごとき”存在としてくださいました。私には伝道者パウロの言葉が思い起こされます。

ところが、主が言われた、「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。だから、わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである。

(2 コリント 12:9~10)

これは伝道者パウロが 3 回も必死に祈り求めたことがかなえられなかった先で示されたキリストの真理でした。モーセもまたキリストの真理に満たされていたのでしょう。しかしまたキリストの真理は個人主義で終わるものではなかったはずです。モーセには兄アロンが与えられました。本日の聖書箇所について聖書教育にはこうあります。“アロンは「モーセの預言者」です(7:11)。モーセが神から直接聞いた命令をアロンに語るならば、アロンはすべてをパロに語らなくてはなりません(7:2)。おおよそすべての通訳者に要求される能力がこの時、アロンに課されます。通訳は解釈です。単に単語を逐語的に並べ替えても、相手に届く言葉にはなりません。聞き手であるパロに理解できるようにアロンは語らなければなりません。この意味での神のみ旨への深い洞察力と責任がアロンに求められます。”…以上のように、アロンの働きの深さが聖書教育では指摘されています。神の言葉の協力者というのは、右から左へ、ただ横流しする役目ではありません。受けた言葉を理解するだけでなく、伝える相手に対する深い洞察が求められます。

聖書を読むとき、とかくモーセばかりが目されがちですが、強力な助っ人との出会いによって、初めてモーセの“神のごとき”存在が果たされていきました。私たちが神のみ旨を証しする使命を担う存在として、“神のごとき”存在とされています。そしてそれは、自分一人で何かができるようになる、ということでは決してありません。仲間との協力関係、隣人との協力関係が一人一人の生きる使命が果たされていく力となります。

わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。

(ヨハネ 14:16)

助け主なる神の霊は、コリント人への第一の手紙 12 章などを見ると、お互いの弱さを補い合う群れとして現れます。自分の弱さを隠すことなく、共に祈り合える群れは幸いです。お互いの弱さを補い合うことを喜ぶ群れは幸いです。そこにこそ“神のごとき”存在が豊かに現れることでしょう。私たちが祈りの課題を分かち合っていきたいと思います。

<祈りの課題>

- ・全世界で新型コロナウイルスの感染が拡大しています。脅威にさらされ困難の中にある方々のために、また治療にあたっている医療機関の方々のために、予防法や治療法が示されますように。
- ・この度の九州、東北を中心とした集中豪雨により被災された方々を覚え、お祈りください。また、速やかな復旧を願って働かれている皆さんのために。
- ・東日本大震災、熊本地震、今年の台風 15 号・19 号、その後の大雨等によって被災され、痛み、悲しみの中にある方々を覚えて。また震災支援の働きに仕えている連盟、諸教会、伝道所を覚えて主のお支えがありますように。
- ・9 月には会堂での礼拝再開の道が開かれますように。また在宅礼拝期間中もお互いの祈り合い、支え合いが守られていきますように。

皆さんで祈り合いたい情報、今を生きる思いなどありましたら、是非お寄せください。ご連絡をお待ちしています。

<訃報>

木村敏子さんが 2020 年 8 月 18 日朝、88 年の生涯を終え、召天されました。8 月 22 日に家族葬を執り行う予定です。残された夫、木村彰さんのご健康のため、またご遺族皆様に主の慰めと希望がありますよう、共にお祈りしていただきたく、よろしく願いいたします。

さいたま市など全国で広がるコロナ再感染と夏場の熱中症リスクの狭間で換気(窓開放)も難しいため、8 月末まで会堂での礼拝、諸奉仕を再休止とします。あわせて会堂での諸集會も休止継続です。

今後の状況によって期限の変更を行う場合は、改めてお知らせします。